

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172000705), 法人名 (有限会社グループホーム花), 事業所名 (グループホーム花(1階)), 所在地 (北海道小樽市最上2丁目19番9号), 自己評価作成日 (令和4年3月1日), 評価結果市町村受理日 (令和4年4月4日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の外出自粛の為、毎年継続して行っている地域交流(近隣の保育園や中学校、当ホームの敷地内でのフリーマーケット、町内会館での予防体操に参加、近隣のお寺の行事への参加)を図る事は出来ませんでした。ホーム敷地内にある畑で、豆撒きから収穫まで入居者様と一緒にしたり、季節の行事 七夕、夏祭り、敬老の日、ハロウィン、クリスマス会、年越し、書初め、節分、ひな祭り、入居者様全員の誕生日会等は入居者の皆様と楽しんで行うことが出来ました。その中でも、職員、入居者様が一緒に行うハロウィンの仮装が、訪問診療で訪れた医師や看護師からも好評を頂く事ができました。また、毎月のホームでの様子を撮影した写真を掲載している「花たより」を各フロアごと作成し、個別で手書きの手紙を添えて、ご家族様に毎月送っております。なかなかコロナで面会が難しいご家族様にとって、ホームの様子がわかり安心と喜ばれております。今後、lineを使用しての面会も検討しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0172000705-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和4年3月17日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、天狗山に程近い高台の住宅街にある、木造2階建ての2ユニットである。職員は明るく、日々の生活で利用者に寄り添うケアを実践し、思いの把握に努めている。また、同じ方向性での介助支援を目的とし、職員間での申し送りや利用者に係わる情報共有が徹底されている。管理者、事務長は職員の話聞き取る機会を多く作り、安心して働ける環境の整備にも配慮している。入居後も利用者と家族の絆を大切に、毎月、ユニット便りと個別の手書きのお便りを発行し、写真と共に日常生活の様子や、健康面でのコメント等を伝えている。コロナ禍により制限が多い中、状況に応じて柔軟に面会を再開させ、多様な面会方法を検討し、家族へ周知したり、利用者を楽しんでもらえる行事やレクリエーションの充実を職員間で検討し、実践している。今後も変わらぬ尽力に期待したい。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 ↓該当するものに○印, 項目, 取り組みの成果 ↓該当するものに○印. Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

【1階グループホーム花】 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り、内部研修時、常に目の触れられるようにリビングや事務所に貼りだし管理者や職員が共有しながら実践につなげている。	事業所の介護理念を目立つ場所に掲示し、職員間で共有している。また、定期的に理念を振り返る機会を設け、質の高いサービスが実践出来るよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	近隣の保育園児、中学校へお互いに訪問したりホーム敷地内でのフリーマーケットに地域の方たちの参加、地域の一人として日常的に交流している。(前年度同様にて去年はコロナで出来なかった)	通例では、積極的に地域行事に参加したり、ホーム敷地内での大規模なフリーマーケットの開催で、地域への還元と相互の協力関係作りに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域近隣の方より相談を受けたり他のサービス、アドバイスや紹介等行っている。また、保育園児の散歩道になっており時折り畑を見に来たり休憩所となっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では地域包括、近隣の方、家族参加していただきホームでの出来事、サービスの状況、入居者の様子等を報告する。話し合い、アドバイスして貰いサービス向上に活かしている。又、家族様のみにてオンライン、ズームが使用できるようにして生かしている。	通例では、行政や各委員等の参加を得ながら、運営推進会議を2ヶ月毎に定期開催している。書面での開催となった現在も議事録を送付し、意見を聞き取ることで、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	直接市町村の担当者に出向き分からない事は聞き実情やサービス状況などについて報告話し合いサービス向上に活かしている。	役場の窓口からは、定例の運営推進会議での運営状況報告の他、メール・電話での相談や随時指導、アドバイスを受け、運営に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止委員会を設置し、定例で開催、内容について全職員に周知している。全利用者の現状の確認と定期的に内・外部研修の機会を作り、禁止となる具体的な行為等について学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝の申し送りや内部研修会にて話し、見過ごすことの無いように注意を払い、職員同士、防止に務めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を使用されている方がおり学ぶ機会があり必要に応じて話が出来きそれらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解・納得して頂いており不安や疑問があった時はすぐに対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会簿にて意見、要望欄を設け玄関内に意見箱を設置している。面会時には必ず意見や要望、困ったことがないか聞きそれらを運営に反映している。	本人・家族が意見・要望を話しやすい関係作りを心掛けている。感染防止に留意・工夫しながら、面会も弾力的に再開しており、コロナ禍であっても自由に話せる環境作りに努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや、職員からの意見や提案を常に聞ける状態であって管理者は反映している	会議や申し送りの場で、職員が自由に意見を述べる機会があり、介護姿勢や業務の改善に活かしている。管理者、事務長が、随時相談に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価にて評価及び日常の勤務状態と努力実績に応じた評価を行い手当など支給するなどやりがい向上心を持って働けるような環境整備に努めている。(意見や要望を取り入れている)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者やリーダーは職員一人ひとりの力量を把握し働きながらトレーニングしていく事を進めている。認知症介護基礎研修への参加あり。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不定期ではあるが外部の研修がある時に職員に案内し参加を促し同業者との交流を通じサービスの質向上させていく取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の聞き取り等にて、本人の様子を見ながら本人が困っている事、不安な事思っている事等に耳を傾けながら本人が安心して過ごせるよう良い関係を築ける様に務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の聞き取り等にて、家族が困っている事、不安な事、要望がある時しっかりと耳を傾けながら良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に聴き取りをし、本人と家族が必要とする他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の出来る力を信じて有意義に発揮できるように促し役割を持って行えるように暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に情報交換しており本人と家族の絆を大切にしながら、本人を支えていく良い関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の通い慣れた美容院や病院など行けるよう支援に努めている。	通例では、知人が来訪した際には、居室で寛いで過ごせるよう努めている。希望する馴染みの場所への外出は、職員同行、または家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し孤立せずに利用者同士が関わり合いを持てるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、家族や病院から連絡があった場合これまでの関係を大切にしながら必要に応じ相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や日常の会話の中で本人への聞き取りをして、本人の思いや希望など意向の把握に努め本人本位に検討している。	終末期の意向も含め、利用者本人より思いや希望を聞き取り、職員間で共有している。家族からも情報を得て、定期的にあセスメントを行い、プラン化に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に家族や入居時の担当ケアマネから情報ももらいサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身状態等は申し送りや生活記録、申し送りノートにて職員同志が共有し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前の聞き取り調査やモニタリング表を活用し課題分析して、ケアマネ中心で現場職員と、気づいた事、本人の日々の様子、変化を話し合いを行って介護計画の見直しをしている。また、本人、家族の意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している。	利用者本位を基本に、家族、医療機関、職員の意見を反映し、日々のモニタリング結果と合わせて検討することで、現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を元にし、日々の様子や気づきを個別記録に記入し変化があった時には職員間で情報を共有し朝の申し送り時、実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。(買い物はコロナの影響により控えた)	病院、買い物、入院の手続きや同行代行支援や更新手続き等その時に生まれるニーズに対応し柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。(買い物はコロナの影響により控えた)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のお寺での豆まきに参加させていただいたり地域での予防体操に参加し本人の心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう支援している。(コロナにて予防体操は現在お休みしている)		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はケアマネが同行したり、家族の希望にて家族が受診の付き添いを行っている。本人、家族の希望も聞きながら日常の様子を適切に主治医に状況報告を伝えたり、良い関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は利用者と家族の意向で決定している。協力医療機関からの助言を得て、体調面・支援方法について職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員と看護師は常に情報や気づきを互いに伝え、相談しながら利用者の状態把握や適切な看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、医師、看護師、医療連携室と密に連絡を取り、様子観察に行くなどして状況把握するように務めている。病院関係者との情報交換相談、助言をいただきホームで安心して生活できるよう良い関係作りしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時「重度化した場合の対応に係る方針」を家族に説明し同意を得ている。看取り支援は行って居ない為、実際に重度化した場合主治医がホームの看護が困難と判断した場合に入院または転移院できるよう調整する。又、今年度は家族様とご本人の意向により主治医と連携を図りながら看取りを行った。	契約時に事業所の指針を説明し、状況に合わせて意向の再確認を行っている。医療機関との連携体制があり、家族と共に終末期を支えるための話し合いを重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年度は消防隊員に急変や事故発生時に備えて、救命救急講習研修を行って頂いたが、コロナ感染予防の為、現在は消防署員の派遣は行っておらず、内部研修で救命に必要な応急手当方法などを学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回は必ず、日中・夜間を想定した避難消防訓練を実施している。コロナ禍の外出自粛前までは全ての訓練時に消防署職員の派遣と火災通報装置に登録されている地域住民にも参加をお願いしていたが今年は参加を控えて頂いた。発電機の使用方法や実際の活用方法を訓練にて活用した。	定例で火災・自然災害を想定した避難訓練を実施している。地域とは町内想定災害対策や、避難時の相互の役割確認を行っている。定期的に自家発電機や備蓄品の確認を行い、不意の災害に備えている。	災害時の避難場所について、事業所の考えを定期的に関係者・家族に周知する事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格尊重プライバシーをそこねない言葉づかい口調や接する態度には十分気を付け対応している。	利用者の立場に立ち、プライバシー、羞恥心に配慮している。日々のトイレ誘導や入浴時の対応等も見直ししながら、尊厳を損なう事のないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思い、希望、やりたいことの自己決定出来るよう常に働きかけて声掛けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのスペースを大切にどのように過ごしたいのかを知り、職員の決まりや都合を優先することなく、本人の希望、本人の思いを大切に穏やかに過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな服を選び着て貰っている。また、季節にあった服のアドバイスの支援もしている。化粧や訪問美容院二か月に一度来ている。行事時は化粧をしたり、おしゃれを楽しんだりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度の材料切り、味見、盛り付、洗いなど当番表にて各自の役割があり、活かしながら支援している。表示にて職員と一緒に「仲間と一緒に手伝いして楽しいな」といい、洗いも一緒にやっている	季節の食材を取り入れ、嗜好を聞き取り、献立を作成している。調理準備や下膳、テーブル拭き等、職員さながらの当番表を作成し、お手伝いをお願いする事で、食事が楽しみある時間となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録に食事摂取量、水分量を記入し、把握している。水分不足時には声掛け促し、自分の好きな飲み物を用意し飲んで貰うよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいをを行い義歯洗浄にて清潔保持に努めている。必要に応じて訪問歯科、口腔ケアをし、指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを活かして、目で見てわかる排泄チェック表を付けている。声掛け誘導、見守り行い、清潔保持、自立に向けた支援を行っている。	排泄はトイレで行うことを基本とし、チェック表を用いながら、排泄の誘導も時間と仕草を読み取って、行っている。家族の協力を得ながら、適切な衛生用品を選択、使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操の時間を設け、体を動かすようにしている。水分や乳酸菌飲料やヨーグルト等で腸内環境をよくするなど自然排便を促す様に取り込んでいる。また、必要に応じて医師に相談し予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	血圧、体温等や体調の変化の把握をして、希望やタイミングに合わせて入浴を楽しんでもらっている。入浴剤にて香りや色を楽しまれている。	毎日お湯はりを行い、週に2回以上入浴出来るよう努めている。同性介助の希望を聞き取っており、時間帯や担当者を調整し、会話しながら楽しみある時となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時々状況に応じて休息したり、安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳や薬の説明書を個人のファイルに閉じてあり使用方法や用量理解と確認し服薬に努めている。また、薬局にも相談、医師や看護師に確認する事もある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力を配慮し自分であらしい生活を送れる様に生活リハビリを兼ね、毎食後の後片付けや役割の分担して行っている。コロナでの外出・外食は難しかったのでホーム内で季節のレク行事を多く取り入れ気分転換を図れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防として、前年度、同様にて外出は控えた。家族や地域の人々と協力しながらは出来なかったが、職員で出来る限り一人ひとりの希望に添えられるように季節に合わせた外出先を選び、外出支援をしている。また、全員での外出はコロナの為、困難である為外食、買い物以外にも近所のおきさん園内散歩、畑に出てのお手伝いをして貰っている。	外出行事は自粛しているが、気候の良い時期は周辺の散策をしている。軽い運動での気分転換や心身の機能維持に努めており、コロナ禍での制限が最小限となるよう努めている。冬期間以外は、ホーム菜園での苗植えから収穫までの日課が楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持などについては入居時にお金が無くなったなどの問題が発生しても責任を負わない事を家族には理解同意して頂いた上で自己管理が可能な入居者に限りお金を所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時に家族との連絡手段として、携帯電話を持参して要る人もいる。入居者自ら家族へ電話を掛ける事は出来るが自ら電話かける人はいない。家族からの電話があった場合はプライバシーに配慮して居室にて話して貰っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓は大きく季節を感じられ、リビングや壁、廊下に職員や入居者の手作りの飾り付けをしている。リビングはCDで演歌、ジャズ、童謡などの音楽が常に流れている。また、冬季には加湿器等置き、各居室には濡れタオル等干し湿度対策で乾燥を防いでいる。	採光の良い居間を中心に、和める雰囲気づくりに留意して、寛げる備品の配置や季節感に合わせた飾り付けをしている。また、温・湿度の管理や換気など、健康に配慮した場所となるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由にリビングへ来ては気の合った利用者同士で話したり本を見たり、思い思いに過ごしている。また、憩いの場でソファーに座りテレビを見たりゆっくり過ごせるような空間を工夫をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明時には居室に馴染みのある使い慣れた家具や仏壇や写真など持ってきていただき、居心地よく、安心して過ごせるように家族と相談しながら本人が居心地よく過ごせる様な工夫をしている。	家族の協力を得て、本人の日常に馴染みある備品や家具、家族関係の写真等を飾り、心身の状況に合わせた居心地の良い生活環境となるよう、支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に表札、トイレには見やすい様に大きな文字で分かりやすい様に張り紙紙をしている。夜行灯テープを貼り暗くても分かるようにしている。トイレ内、廊下全てに手すりが備え付けられており、安全に移動でき自立した生活が送れるように工夫している。		